

(別添－3) ETC普及に伴う主な本線料金所での渋滞緩和効果

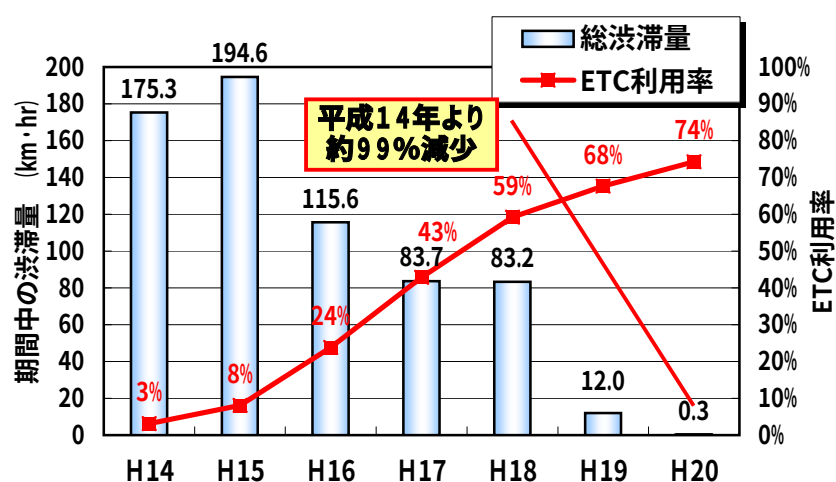
- 今年のゴールデンウィーク期間中における首都圏の主な本線料金所のETC利用率が約74%となり、昨年同期(約68%)より約6%増加しました。

これに伴い、料金所を先頭とする渋滞^{※1}は、ETC全国導入直後の平成14年より、渋滞量で約99%減少しました。

(1km以上の渋滞は、関越道下り新座本線料金所で1回発生、他の本線料金所では無し。)

※1 料金所を先頭とする交通集中による渋滞(事故渋滞、アクセス道路からの渋滞延伸は含まない。)
渋滞： 時速40km以下で走行する車列が1km以上かつ15分以上継続した交通状況をいう。

首都圏の主な本線料金所における渋滞量の変化



比較	渋滞量 (km・hr)	ETC利用率
H14	175.3	3.2%
H20	0.3	74.2%
増減	▲99.8%	+71.0%

H19	12.0	68.7%
-----	------	-------

※渋滞量は、渋滞規模を表す指標(渋滞長×渋滞時間)

(分析対象の本線料金所) 首都圏の高速自動車国道の本線料金所
 ・東北道(上下線) 浦和本線料金所 ・関越道(上下線) 新座本線料金所
 ・常磐道(上下線) 三郷本線料金所 ・東関東道(上下線) 習志野本線料金所
 (分析対象期間) 平成20年4月25日(金)～5月6日(火) [12日間]
 (ETC利用率) 分析対象の本線料金所における各年の期間中のETC利用率